

つくる喜び、感じる喜びを豊かな表現力につないでいける子どもの育成  
～子どもが達成感を味わう支援のあり方を探る～

まんのう町立仲南小学校 新名 智恵

## 第6学年 図画工作科学学習指導案

### 1 題材名 竹と光のハーモニー

### 2 題材について

(1) 本題材は、主に竹と和紙を材料として外の枠組みを作り、中に入れられたライトをつけることでその光のあたたかさを感じ取りながら、美しさや表現する楽しさを味わうことができる題材である。地域に豊富にあり、児童にとって親しみ深い竹と、破れにくく落ち着いた雰囲気をかもしだす和紙を組み合わせる活動は、児童にとって日本の伝統的な職人技にふれるような感覚をもたらし、高学年の児童の情緒的な感性に響くものであると考える。また、完成した作品を卒業式に披露する目的を持って臨み、各自の思い出を残りの小学校生活の中から作品に刻もうとする意欲も高められる。直線的な竹の組み方の工夫や和紙の貼り方の変化をもたらす製作の過程で、児童は視覚的な美しさを追究したり、友だちとの鑑賞を通して新しい発見をしたりしながら製作の喜びを味わい、達成感を存分に実感できると考える。

(3) 本題材では、素材に対する愛着を持って取り組ませるために、材料の竹の加工過程から自分たちの手で取り組ませる。また、自分の作りたいオブジェの構想は、初めから固定するのではなく、形や色、雰囲気が製作過程で変化する柔軟な発想を評価し、イメージが広がる支援の言葉を意識的に助言したり資料の工夫をしたりしたい。光の美しさを強調したオブジェやイルミネーションの写真等を提示するとともに、実際に竹林に入って、その形状や木漏れ日を観察して、その美しさを感じ取った経験をファイリングさせる。一方フレームの製作では、いろいろな形の面のパーツを製作した後、それらを組み合わせながら完成させていくことにより、変化する形の面白さを実感させたい。また、和紙の貼り方で灯りの印象が変わることを実感させ、何度でも貼り方を変えることができるよう、製作途中の作品をライトアップさせるコーナーを設ける。

オブジェの形に応じて、どのパーツをどのように結び合わせるとよいのか考えさせたり、組み合わせ方次第で、想定外の形を生み出す面白さを発見したり、友だちと協力して作業をしながら「～に似ている」「○○型と名前をつけよう」といった言葉が自然に現れたり、製作過程で思考した活動を大切にしたい。

### 3 題材の目標

- ・ 竹や和紙の性質を生かし、イメージを創り上げながら製作する。(造形への関心・意欲・態度)
- ・ 竹を結び合わせたり、編んだり、組んだりしながら外型を考えたり、和紙やライトを試したりしながらつくりたいものに近づける。(発想・構想の能力)
- ・ 作りたいイメージに近づけるように、フレームや和紙の絵等を工夫してつくる。(創造的な技能)
- ・ 資料を見て美しさに共感したり、友だちと協力して作業を進めながらよさに気付いたりする。(鑑賞の能力)

### 4 学習指導計画（全7時間）

第1次	竹林の中で光を観察したり、灯りをともしたりしてイメージを広げる	-----	1時間
第2次	材料の竹を加工する。	-----	3時間
第3次	フレームを作り、和紙を貼って作品を完成する。	-----	3時間
(本時2／3)			

### 5 本時の学習指導

#### (1) 目標

竹を結び合わせた面のパーツを組み合わせながらフレームを作ったり、和紙の巻き方や貼り方をライトアップして試したりしながら、灯りのもれる美しさや印象が違うことに気づき、工夫を加えながら作品を完成に近づけることができる。

#### (2) 学習指導過程

学 習 活 動	期待される児童の反応	教 師 の 支 援 活 動
1 本時の制作手順を確認する。	・ 写真の書き込みを見直そう。	・ 構想図ワークシートで、前時までに竹を組み合わせた作品の工夫ポイントを確認させる。
(1) ワークシートをふり返る。	・ パーツを作りながら、組み合わせ方を考えたよ。	・ 今作っている作品に、どんな形が加わったら、新しい形に生まれ変わるでしょう。
	・ もっと、四角の枠を増やしていけば、タワーのようになるよ。	・ 児童の作品から、組み合わせ方の工夫を言葉でまとめ、資料として提示すると
(2) 友達の作品の工夫点を見つける。	・ ○○さんのフレームは、わたしの作りたいものに似ているな	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ライトを中に入れてつけると作品によって感じが変わるよ。</li> </ul>	ともに、ライトアップしてその印象が異なることを感じ取らせる。
美しい灯りを感じる フレームを工夫して作ろう。		
2 竹の組み方を工夫する。 (1) 竹のパーツを組み合わせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三角形ばかりではなく、四角形のパーツも作ると、組み合わせた時、違った印象だ。</li> <li>・ 同じ向きばかり、重ねていたけど変えてみよう。</li> <li>・ 僕の組み合わせ方だと、ライトが入らないから、底を高くする必要があるな。</li> <li>・ ライトに照らしてみたら、次のフレームを考えよう。</li> <li>・ 初めに考えていたのとは、大きく変わってきたぞ。この形もいいなあ。</li> </ul>	<p>④ パーツを新しく作ってみると、アイデアが浮かぶかもしれませんね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重ね方やずらし方を変えたり、角度に変化を持たせることで印象も変わることを実際に児童の作品で試しながら、工夫点を見い出させる。</li> <li>・ 製作途中で、自由にライトアップコーナーを利用させ、表したい形を固めていかせる。</li> <li>・ 児童がワークシートのふり返りに固執することのないよう、新しい発想が加わった場所や、前時から変化させた部分を積極的に見つけて称賛する。</li> </ul>
(2) 和紙の貼り方を試す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和紙で囲むと、灯りの感じが優しくなるね。</li> <li>・ 竹の間から、灯りがもれてくるのは、竹林の中で見た感じによく似ているよ。</li> <li>・ 白いままの和紙もきれいだな。</li> <li>・ マーブリングをした和紙を貼ってみよう。</li> <li>・ 灯りがきれいに映るように、絵を描く場所にも気をつけたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シンプルな和紙の貼り方をした見本をライトアップして竹だけの時と印象が変わることを確かめさせる。</li> <li>・ 和紙は、仮に貼ることもできるよう助言し、貼る場所を変えて灯りのもれる部分を決めさせる。</li> <li>・ 和紙を白紙のままにしたり、絵を描いたり、前もって用意した模様の付いた和紙や持ち寄った包装紙を利用したり、工夫の幅が広がることに気付かせるが、あくまでも灯りの美しさを妨げないことが目標であることを指導する。</li> </ul>
3 互いに作品を鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分のだけでもライトアップすると灯りの感じがきれいだよでも、今みたいに友だちのもいっしょになるともっときれいだな。</li> <li>・ 初めの書き込みとは、ちが場所に工夫したら意外とうまくいった。</li> <li>・ フレームをずらしたところがうまくできた理由だね。</li> <li>・ 工夫したところは、2つあります。薄い竹を編んだところと全部の面を編まないで、一つは和紙を貼って灯りがスクリーンみたいにみえるところです。</li> <li>・ わたしの作品は、□□とタイトルをつけよう。</li> </ul>	<p>【評】 いろいろな工夫を試しながら、作品を変化させようとしているか。 (観察)</p> <p>A 変化した箇所をワークシートに簡潔にメモさせる。</p> <p>C よく似た作品作りに取り組んでいる友だちの作品を参考にさせ、工夫を取り入れて試すよう助言する。</p>
4 本時の学習をふり返る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童からライトアップしてみたい友だちの作品を聞き、実際にライトアップコーナーで鑑賞する。</li> <li>・ ワークシートに書き込んだ工夫点と比べて、新しく加えた箇所や変えた箇所を書き込むとともに、その工夫がどのような効果や印象の変化につながったのか、文章で書かせる。</li> </ul>

#### <授業をふりかえって>

- ・ ライトアップコーナーの中で、灯りのともった感じを実感しながら制作できたことが、はじめのイメージにとらわれずに、自由に作品に工夫を加える一助となった。
- ・ 卒業式に保護者に披露する目的がはっきりあったことで意識を継続でき、工作や鑑賞、絵画など様々な内容と関連づけながら授業にのぞめたが、時数の配置など再度考慮しなくてはならない。
- ・ 制作過程で自分の作品に熱中してしまい、友だちとの交流が不足していた。教師側から、交流に時間をかけ、作品の写真資料以外に自分の言葉で語る時間が必要であった。
- ・ 和紙の持つ風合いは、身近な店舗の装飾などから感じ取らせることができたが、どうしてもフレームの型が決まってしまいがちになる。児童の発想の豊かさを引き出すためには、作りながらイメージをわかせて、どんどん変化していくおもしろさを味わわせるような支援が必要である。  
(児童の中で何人か、導入段階で意欲が下がったにもかかわらず、新しいイメージに切り替えたことで、納得のいく作品につなげた者がいたので、授業の中でとりあげて紹介するとよかった。)
- ・ 地域の素材「竹」にこだわり、地元の方にその扱いを教わった経験は、児童の印象に深く残った。またそのことが、故郷を誇りに思う気持ちを持つことにつながればと願っている。